

平成29年度

事務事業評価表 A (平成28年度の実績評価)

記入年月日  
平成 29 年 4 月 10 日

Table with columns for 事務事業名, 事業区分, 担当, 政策体系, 予算科目, 法令根拠. Includes details for '桃山中学校区統合準備委員会運営事業' and '学校教育の充実'.

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

Table with 2 columns: ①事務事業の概要 (事務事業の全体像) and ②担当者が行う業務の内容・やり方・手順. Includes details about committee activities and school improvement goals.

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with columns for ①手段, ④活動指標, ②対象, ⑤対象指標, ③意図, ⑥成果指標. Includes data for activities like committee meetings and target values for school scale.

(3) 投入量 (事業費) の推移

Table showing input amounts for 27, 28, 29, 30, 31 years. Includes sub-tables for 事業費 (国庫支出金, 県支出金, etc.) and 人件費 (正規職員, 非常勤, etc.).

Table showing internal costs (事業費の内訳) for 28 and 29 years. Includes categories like 報酬 (741), 報償費 (40), 需用費 (25).

(4) 当該年度の実施内容

Table with 4 columns for implementation content for 29, 30, and 31 years. Includes activities like '教育目標の検討', '閉校式の検討', '開校式の実施'.

事務事業名	桃山中学校区統合準備委員会運営事業	事務事業No.	30101000932	所属課	学校教育課
-------	-------------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
平成26年度の桃山中学校区保護者からの統合に関する要望書提出及び議会での請願書採択を受け、平成27年6月議会において統合準備委員会の関連補正予算が認められ、同年9月「桃山中学校区統合準備委員会」が発足した。全体で35人の委員で組織し、分野ごとに分科会を設け、学校統合に必要な事項の検討を行う。平成28年度においては3回の全体会と16回の分科会を開催した。	
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
統合準備委員会には、児童生徒の保護者、地域の代表、議会の代表、学校の代表が参加し、活発に意見が寄せられている。28年度には新たな体操服の決定や学校名、校章の公募を実施したため多くの意見が寄せられた。また、通学路に関しても地域の子ども会から意見をいただいている。通学が遠距離になる地域の保護者からは通学支援を強く求められている。	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
改革改善を行う	校名、校章のほか、校歌、スクールウェア、通学路、遠方の児童の通学方法など、検討事項が多岐にわたることから、決定しなければならないことが非常に多い。 今年度全体会3回、各分科会6回ずつの予算を見込んでいるが、その中でいかに効率良くかつ充分な議論ができるか、事務局側の事前準備が大切になる。 基本的には結論になり得る案を複数用意して会議に臨み、そこに委員の意見を取り入れる形で進めたいと考えている。

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評 価 項 目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 適切配置基本計画に基づく桃山中学校区の統合にかかわる事業であり、学校の統合に地域の声は欠かせないことから、政策体系と結びついている。
有効性	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 公立学校の統合にかかわる事業であり、市の関与は妥当である。
効率性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 複数の学校がスムーズの一つになるためには関係者の意見集約が不可欠である。会議を繰り返し、より良い統合の環境を作っていく必要がある。
公平性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 平成30年4月開校時までに必要な事項が決定出来ず、学校運営に支障をきたす。
公平性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 適切配置基本計画に沿った統合であり、校舎の耐震性や今後の少子化も見据えた上で決定した統合に必要な事業であり、統廃合の可能性はない。
公平性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 閉校にかかる記念誌印刷代が大きいが、他市町村の事例を見ても歴史ある学校の閉校には同様のものを作成・配布しており、必要な経費である。削減余地はない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 適切配置基本計画では市内すべての小中学校を対象としており、計画に沿った統合である本事業は公正・公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	平成28年度には学校名「桃山学園」、体操服、上履き、校歌作成の方針などを決定してきたほか、校章の公募の実施や、通学路の検討を行った。 教育目標分科会においては、学校の教職員により教育目標に基づく具体的な検討・活動が進められている。 29年度は校章の決定や校歌の作成、通学路と遠距離通学児童の支援について具体化する必要がある。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">成果</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		成果		コスト			削減	維持	増加	向上		○			維持					低下				
成果		コスト																								
		削減	維持	増加																						
向上		○																								
維持																										
低下																										
通学の支援に関しては、他市町村の事例を見ても様々な方法がとられているほか、統合により遠距離通学になることを強く心配する保護者の意見などもあり、慎重な対応が必要となる。 また、支援方法によっては今後の市の財政負担が莫大になる可能性もあり、地域の不安解消と市の負担のバランスを意識して進める。		(6) 事務事業優先度評価結果																								
		成果優先度評価結果																								
		コスト削減優先度評価結果																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>